



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
 （奈良県保健環境研究センター内）
N a r a I D S C



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 気になる話題～インフルエンザ③～ NEW
- 保健環境研究センター1月日より
 ～ノロウイルスによる胃腸炎集団発生について～ NEW



（調査週） 平成 24 年 第 2 週 1 月 9 日（月）～1 月 15 日（日）
 奈良県および二次医療圏別発生状況 （奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾 患	定点当り	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	感染性胃腸炎	8.74	↑	→～↑	↑	→
2	インフルエンザ	8.11	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
3	水 痘	1.86	→～↑	→～↓	↑↑	↓
4	流行性耳下腺炎	0.77	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
5	RS ウイルス感染症	0.57	→～↓	→～↓	→	↓

※インフルエンザ定点当たり報告数が、葛城および吉野保健所管内で注意報レベル（10.00<）です（葛城保健所：10.27、吉野保健所：17.00）。

県北部地区概況 報告数は390例で、前週報告の232例から急増。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②インフルエンザ、③水痘、④流行性耳下腺炎、⑤RSウイルス感染症＝A群溶連菌咽頭炎の順。インフルエンザの報告数（81→199例）は、激増。感染性胃腸炎の報告数（130例）は、ほぼ倍増。流行性耳下腺炎の報告数（11例）は、やや増加。A群溶連菌咽頭炎の報告数（9例）は、ほぼ横ばい。RSウイルス感染症の報告数（9例）は、横ばい。水痘の報告数（19例）は、ほぼ半減。なお、インフルエンザ定点からの報告の内訳《（）内は定点当たりの報告数》は、奈良市HC管内；54例（4.91）、郡山HC管内；145例（9.06）だった。奈良市HC管内基幹定点から無菌性髄膜炎が1例（5～9歳児）、また、郡山HC管内基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎が2例報告された。奈良市HC管内眼科定点から、急性出血性結膜炎の報告が1例あった。

（村井 記）

県北部外来状況：患者数はインフルエンザの流行とともに増加してきた。インフルエンザは正月休診で一旦減少したが、先週あたりより再び増加し、中旬以降は完全な流行状態となっている。大部分が迅速検査では A 型で、精密検査をしたものは AH3N2（香港型）が検出されている。B 型は僅かである。同時に感染性胃腸炎も流行が始まっている。現在は保育園児とその家族が多い。精密検査を行ったものではノロウイルスが検出されている。咳がしつこく続くマイコプラズマ肺炎を疑わせる例が成人によくみかけ、マクロライドやミノサイクリンで解熱し、軽快している。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、第 1 週の 240 例から第 2 週は 425 例と増加した。上位の 5 疾患（第 1 週→第 2 週）は、①感染性胃腸炎（89 例→148 例）、②インフルエンザ（99 例→185 例）、③水痘（13 例→44 例）、④流行性耳下腺炎（10 例→15 例）、⑤RS ウイルス感染症（9 例→11 例）の順であった。感染性胃腸炎が 1 位、インフルエンザが 2 位、水痘が 3 位、流行性耳下腺炎が 4 位、RS ウイルス感染症が 5 位で、順位は第 1 週と同じであった。眼科定点からは葛城 HC より流行性角結膜炎 2 例の報告があった。基幹定点からは葛城 HC よりマイコプラズマ肺炎 1 例の報告があった。（徳田 記）

県中部外来状況：外来数は第 1 週からインフルエンザ流行に伴い増加。学童が殆どで成人、乳幼児は少ない。学校での流行が主と思われる。インフルエンザ A 型が主流で B 型は 1 例あったのみ。症状は一時高熱になるが比較的軽症。感染性胃腸炎の流行もあり、嘔吐が主症状のノロウイルス様。輸液を要する例は今のところない。口タは今冬まだない。細菌性の感染性胃腸炎は減少している。RS 気管支炎が数例あり、外来で対応可能な例もあるが、呼吸速迫で酸素分圧 80%の紹介入院例もあった。年長児でマイコプラズマ肺炎例あり。その他水痘が僅か。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第 1 週→第 2 週）は 71 例→96 例と増加。報告のあった疾患は①インフルエンザ（36 例→62 例）、②感染性胃腸炎（26 例→28 例）、③水痘（4 例→2 例）、③マイコプラズマ肺炎【基幹定点】（1 例→2 例）、⑤A 群溶連菌咽頭炎（1 例→1 例）、⑤流行性耳下腺炎（1 例→1 例）であった。（柳生 記）

県南部外来状況：外来数はインフルエンザや感染性胃腸炎が増加し始めたが特に急増ということはない。インフルエンザは第 1 週で今季初めての患者があった。その後近隣の小学校の 1 クラスで流行、今週から学級（学年）閉鎖となった。既に成人での患者が増加しているようだが、幼小児等では今週あたりからそろそろ流行の始まりといったところか。迅速検査から A 型陽性例は A 香港型と思われる。今週になり B 型も少し見られるようになった。A 型で嘔吐や下痢の胃腸症状を伴うものがしばしばある。感染性胃腸炎もノロと思われるものが急増、家族内感染例も増加した。カンピロもあり。A 群溶連菌咽頭炎、水痘僅か。（山本 記）

【気になる話題 ～インフルエンザ③～】

インフルエンザの報告数が増加しています。近隣府県の状況では、三重県の定点あたり報告数が 21.92（全国値 7.33、近畿 8.95）と著しく高く、次いで和歌山県が 12.84、滋賀県が 11.75 といずれも注意報レベル（10.00）を超えています。奈良県は全体で 8.11（前週：3.93）ですが、地域別では葛城保健所管内で 10.27（前週：6.91）、吉野保健所管内で 17.00（前週：7.00）と注意報レベルに達しており、今後の動向が懸念されます。

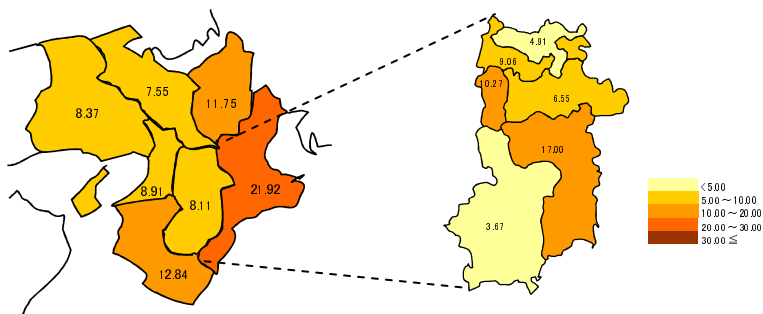


図. 第 2 週のインフルエンザ定点あたり報告数（左：近畿各府県、右：奈良県詳細）
（感染症情報センター 記）

【保健環境研究センター1月だより～ノロウイルスによる胃腸炎集団発生について～】

ノロウイルスは、冬季に多く発生がみられるウイルス性急性胃腸炎の主な原因ウイルスです。ノロウイルスは経口感染によりヒトの小腸で増殖し、吐物や糞便とともに排泄されます。患者から排泄されたノロウイルスが、手指やドアノブ等を介してヒトからヒトへ感染します。また、ノロウイルスは食中毒の原因ウイルスとしても知られており、加熱不十分な二枚貝やウイルスに汚染された食品の喫食により引き起こされます。

当センターにおいても冬季を中心に食中毒事例や集団感染事例からノロウイルスを検出しています（図1）。集団感染事例について施設別に発生状況を調査した結果、ここ2シーズンは小学校を中心に事例数が増加していました（図2）。

今シーズンも既に、ノロウイルスによる集団感染事例が県内で発生しています。本格的な流行に備えて手洗いなど感染予防に十分注意してください。

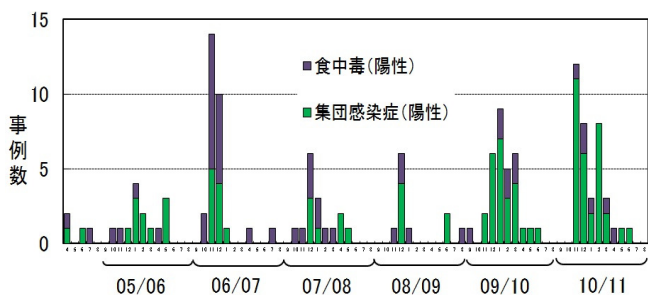


図1. ノロウイルス陽性事例数
（当センター検出分: 2005年4月～2011年8月）

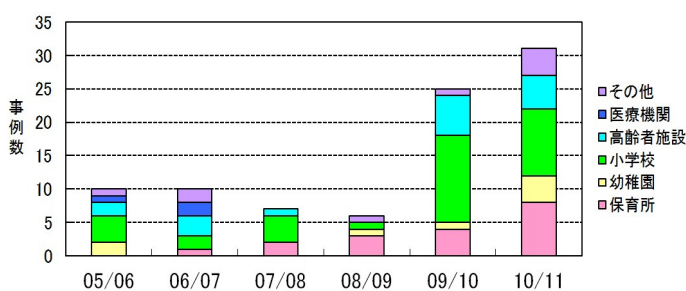


図2. ノロウイルス集団感染事例の施設別発生状況
（2005/2006シーズン～2010/2011シーズン）

（ウイルスチーム 米田 記）